

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	良く なっている	百貨店（売場主任）	単価の動き	・消費税増税前の駆け込み需要によるまとめ買いがみられる。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・3月に限って言えば、消費税増税前の駆け込み需要で、購買客数、客単価とも上がっており、景気は良くなっている。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・消費税増税前の駆け込み需要で、高額品ばかりでなく、全体的に好調であり、特に婦人関連商材の伸びが目立っている。ただ、ファッション性の強いヤングキャリア関連の伸びは他に比べて弱い。全体的に客数は増えていないものの、確実な目的買いと複数購入が多くみられた。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要に加えて、パソコンのOSのサポート終了にともなうパソコンの買換え需要がピークを迎え大盛況である。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・3月25日現在の利用客が前年比122.6%と大きく伸びている。また、今年に入ってからも、毎月、前年実績を上回る利用客数が続いている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・春の訪れとともに人や物の動きが活発になっている。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・消費税増税前の駆け込み需要により、高額時計やダイヤモンド、パール製品など的高額商品が売れている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・消費税増税前の商戦は、近隣駐車場の稼働率をみても順調に推移している。今年の北海道は雪が多く、3月に入っても気温が低く、雪解けが進まなかったため、3月前半の売上は低調だったが、雪解けが進んだ3月後半は持ち直している。観光については、2月の旧正月以降、外国人観光客が順調に推移しており、好調を維持している。しかし、外国人観光客が行かない場所にある店舗は前年を大きく下回っている。日本人観光客の減少が理由と考えられる。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・消費税増税を前にして、来客数が前年比107%となっているのに対して、売上が前年比125%と伸びている。日用の消耗品以外の高額品の売上が伸びており、特に特選品や宝飾品などの伸び率が高くなっている。カテゴリー別にみると、特選品・宝飾品が前年比136%、食品が前年比106%、婦人・紳士衣料が前年比113%などとなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税増税による前倒し需要があるため、売上は前年比106%と非常に良かった。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・景気は確実に上向いている。消費税増税を前にした特需により、高額品や消耗品に限らずまとめ買いが多くみられる。今後は、消費税増税後となる4月以降の購買心理や購買動向によって、景気の動向が左右されることになる。
		スーパー（店長）	単価の動き	・3月は商品単価の上昇にともなう客単価の上昇傾向が続いていることに加えて、消費税増税の影響もあり、客単価が前年を10%以上上回る伸びとなっている。特に、シニアカジュアルブランドやトラベルバッグなど的高額品の動きが良い。
スーパー（役員）	単価の動き	・食料品小売では、3月中旬以降、客単価が上昇している。消費税増税の影響もあり、需要がやや上向きになってきている。景気が上向きになっているとは考えづらいが、駆け込み需要は月末まで続くとみられ、3月の売上は前年比106%～108%で推移することになる。		
スーパー（役員）	販売量の動き	・来客数は前年並みだが、客単価が前年から約5%上昇している。それにより売上も前年から約5%の増加となっている。加工食品、たばこ、酒等の売上が好調である。		
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・消費税増税前の買いだめ需要により、たばこやビール、焼酎といった高単価商品のまとめ買いが発生している。		
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・消費税増税を前にした仮需要が発生しており、客の買上金額が伸びている。		

	衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・来店客との話から若干良くなっている。
	家電量販店(店員)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要により、3月に入ってから店内がにぎわっている。
	美容室(経営者)	販売量の動き	・消費税増税対策の大型商品の購入が終わったことで、3月は美容にもお金をかけるようになってきた。特に商品販売については、売上が前年比150%となっている。
変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要を期待したが、客が高額品の購買に流れる傾向にあり、衣料品については増税前に買うという動きが極端にはみられない。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・消費税増税を控えての仮需要が起きているため、景気が良いように感じるが、全体としては変わらない。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・消費税増税の直前の月であるため、それほど販売量の増加を見込んでいなかったが、3月中旬以降は、予想以上に日用品等の売上が伸びている。理由としては、増税前に日用品の買いだめをしておこうとの判断があるとみられる。また、夏のボーナス払いによる高額品の売上も例年以上に増加している。
	一般小売店[土産](経営者)	お客様の様子	・今年は3月中旬まで大雪の日があり、交通手段を断たれた客がいたことが、消費に大きな影響を与えている。
	一般小売店[酒](経営者)	販売量の動き	・今月は歓送迎会が多くあるため、飲食市場も少しは潤っているが、これは毎年のことであり、今年に限ったことではない。3月の動きとしては、消費税増税を直前に控えた仮需要が多少生じており、その分の売上が上乘せになっている。ただ、こうした特殊要因を除くと、ここ2~3か月の景気は全く変わっていない。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・3月は消費税増税前の駆け込み需要が一部の商品でみられている。特に、化粧品、フォーマルウェア、メンズスーツなどの商品の売上が伸びている。ただ、売上は前年比104%にとどまっており、全体的な状況からみて非常に良い状況というわけではない。
	百貨店(役員)	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要は、最後の最後になって低額品にも影響がみられるようになってきた。家電や家具、インポートブランドの高額品は2月後半から動き出していた。
	スーパー(企画担当)	販売量の動き	・買いだめ需要で一時的に消費が上向いているだけであり、全体としては変わらない。
	コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要により、生活雑貨のティッシュやたばこの売上が一時的に増加している。来客数については、前月並みであることから、景気が上向いているわけではない。
	衣料品専門店(店長)	お客様の様子	・消費税増税を前にして需要が伸びているが、その後の動向が不安である。
	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・駆け込み需要による販売台数の増加が落ち着いてきている。消費税増税までに納車が間に合わないとなった段階で来客数も落ち込み始めている。
	自動車備品販売店(店長)	来客数の動き	・来客数が前年比120%と伸びている。車用品からメンテナンスまで全体的に伸びている。
	その他専門店[医薬品](経営者)	販売量の動き	・さすがに当店でも消費税増税前の駆け込み需要が生じているが、3月は特別な月とみている。むしろ、4月からの落ち込みを心配している。
	その他専門店[ガソリンスタンド](経営者)	販売量の動き	・石油製品価格が高止まりしたままであり、変化はみられない。
	高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・平日は地元客で、週末は観光客で客足が良く、客の回転率も良い。ただし、客単価が低下しており、売上は前年比で微増にとどまっている。4月からの消費税増税にあわせて、単価を上げたメニュー構成に変更している。
	観光型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・3月は学会や大会、大型イベントの開催がなかった。消費税増税にともなう駆け込み需要もみられなかった。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・現在、第1四半期の売上は前年比91.2%に達しており、今後、前年を上回ってくるとみられる。
旅行代理店(従業員)	それ以外	・消費税増税を控えて、3月までに旅行申込すると現行税率が適用される、海外旅行も課税対象品目である、税率が8%上がると勘違いしている客がみられるなど、客が増税・値上げムードに流されている。	

	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・最近になり、高額商品を趣向する客が若干減少傾向にある。
	タクシー運転手	来客数の動き	・3月はタクシーの売上が年間を通して12月に次いで良い月であるが、今年は天候が前年とあまり変わっていないにもかかわらず、タクシー1台当たりの売上が前年を下回った。夜間の繁華街の人も期待したほどでなかった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・前月から今月にかけては大雪の影響もあり、客からの需要は、前年とほぼ同じ、又は若干上回って推移している。しかしながら、それが売上に繋がる状況とまではなっておらず、前年から若干の落ち込みとなっている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・例年2～3月はタクシーの売上が落ち込むため、3か月前と比較すると約9%の落ち込みとなっているが、前年と比較すると、ほぼ同じであったことから、景気は変わっていない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・1～2月とまずまずの来客数であったが、3月は減少しており、3か月全体では変化がみられない。
	パチンコ店（役員）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要を含めても消費動向はそれほど変わっていない。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・店内での販売商品に関して、多少の駆け込み需要はあったが、3月の総売上は前年とほぼ変わらなかった。3か月前と比較しても、多少は売上が増加しているが、時期的な変動の範囲とみられる。
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・高額品の駆け込み需要も一段落してきている。
	住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・少しずつではあるが、売行きの良い分譲マンションと売行きが悪い分譲マンションに二極化しつつある。駆け込み需要が終わりつつあるなかで、客の選別が厳しくなっている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・中旬の大雪や入学・卒業、転勤による交際費の増加など、消費にマイナスの影響をもたらす要因がいくつかあるが、高齢者が主体の商店街では、消費税に対するアレルギーが買い控えを起こしており、そのことが最大の要因となっている。
	一般小売店〔土産〕（役員）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の影響もあり、来場者が前年の同時期と比べて多くなっている。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・3月は暴風雪警報が2週にわたり2度あった影響で商店街の客足が遠のいた。消費税増税の影響は当店で少ないが、各家庭では光熱費や生活品の消費を抑制しているようである。
	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・受注残の登録もあり、表面上の数字は良いが、来客数は前年比70%程度と落ち込んだ。
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・サービス部門や中古車の受注、売上は、引き続き消費税増税前の駆け込み需要がみられるなど、変化はないが、新車の受注が想定したよりも急激に落ち込んできている。新車の駆け込み需要のピークは1月であり、3月に入ってから来客数も少なく、4月以降が非常に心配な状況である。
	高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・売上は前年を下回ったが、来客数は低価格ランチを中心に増えて前年並みとなった。来客数が増えた理由は、はっきりとは分からないが、駆け込み需要で外食ついでの外食が増えたことなどが考えられる。地方の飲食店では、価格が安めの送別会などがよく入っているようだが、たとえ売上が増加していたとしても、食材価格の高騰で利益を落としていることが少なくな。札幌市内のホテルでは、夕食のフードメニューをなくしたり、土曜日の営業を取りやめるなどして、形態を変更するレストランもみられる。
	一般レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・食材の仕入価格の高騰で一部のメニューを値上げしたところ、来客数が前年より10%ほど落ち込んだ。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・3月の来客数は例年並みとなっており、悪い状況ではないが、物価高の影響で採算が悪化している。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・3月は消費税増税を前にして、個人需要の拡大があり、個人向けの航空券の手配が前年を上回る傾向となっているが、その一方で4月前半の予約の動きが鈍い。
	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・予約の際、一番安い商品を希望する客や、予約せずに料金だけ知りたいという客の来店が増えている。
悪くなっている	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・駆け込み需要が落ち着いてきている。

企業 動向 関連 (北海道)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	食料品製造業 (経営者)	それ以外	・消費税増税前の駆け込み需要がみられる。
		建設業(従業員)	受注量や販売量 の動き	・消費税増税対策として、前年の秋に契約した大型建築工事の実質的な着工時期を迎え、労務者や建設機械がフル稼働し始めている。
		金融業(企画担当)	それ以外	・多くの業種で駆け込み需要が顕著である。家電・乗用車など高額商品のほかに、食料品、日用品なども売行きが目立ってきた。一方で、建設関連での技能者不足、流通関連でのドライバー不足などのマイナス要因もみられる。
		コピーサービス業(従業員)	取引先の様子	・取引先の決算状況が非常に良い。先行投資や消費税増税による駆け込み需要の影響を考慮しても良くなっている。
	変わらない	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量 の動き	・消費税増税前であるが、特に需要が増えることもなく、前年と変わらない受注状況である。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・引っ越しシーズンの到来であるが、今年は集配トラック及び作業員の手配が難しく、客に断るケースが出ている。4月に入ってからの荷物移動も発生している。
		輸送業(支店長)	受注量や販売量 の動き	・年度末となり、決算見込みがみえてきたなかで、次年度の中期計画に大きなずれも出てきていない。
		司法書士	取引先の様子	・消費税増税前の駆け込み需要により、中古建物の不動産売買の取引量が多い傾向にあるが、一方で新築建物の取引量が少なく、全体的には景気が上向いているわけではない。
		その他サービス業[建設機械リース](支店長)	受注量や販売量 の動き	・消費税増税による前倒し受注がみられるが、景気の底上げ感はない。
その他非製造業[鋼材卸売](役員)		受注量や販売量 の動き	・相次ぐ値上げの影響による駆け込み需要を期待していたが、商材の品薄状態が続いていたことで、目立つような大量の駆け込み需要はみられなかった。	
やや悪く なっている	家具製造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・消費税増税にともなう小売店を中心とする駆け込み需要が一巡した。住宅関連についての駆け込み需要はすでに終了している。	
	通信業(営業担当)	取引先の様子	・3か月前と比較して、受注量と問い合わせ件数が大きく減少している。	
	司法書士	取引先の様子	・消費税増税の影響やガソリンに対する地球温暖化対策税等で物流コストが増大している。また、物価も上昇しており、景気が良くなる要素はない。	
	悪く なっている	-	-	-
雇用 関連 (北海道)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求人が増えている一方で、求職者が減っている。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・直接、恩恵を受けているような話までは聞こえてこないが、現政権の経済対策の効果が出てきている。求人数が前年比110%を上回る状況が続いている。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人にも駆け込み需要があるのか、3月に入り求人数が一段増加した。また、企業の正社員化ニーズが高まっており、正社員求人が増加している。人手不足は深刻化しているが、在職者の転職希望が増加しており、採用に結びつくケースも多くなっている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年から9.0%増加し、49か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から13.9%増加し、49か月連続で前年を上回った。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人の増加傾向が続いている。ただし、求人数の増加は、パート求人の増加が押し上げている傾向が強く、そのことが懸念材料となっている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・人手不足から産業全体的に求人数が増えている。企業の採用意欲が高まっていることが要因となっている。
	変わらない	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・業務内容や企業規模に関係なく、求職者の絶対数の不足により、求人広告のリピートが増加していることが懸念材料となっている。
求人情報誌製作 会社(編集者)		求人数の動き	・全体の求人数は前年をやや上回る程度であり、例年どおりの傾向で推移している。	

	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・ 募集広告の売上は前年比107.7%と堅調な伸びを示している。上位5業種の顔ぶれは変わらないが、3月は派遣、医療系の求人伸びが30~40%と高くなっている。
	職業安定所 (職員)	雇用形態の様子	・ 2月の新規求人数は前年を8.7%下回った。新規求職者数は前年を9.1%下回った。月間有効求人倍率は0.88倍となり、前年の0.76倍を0.12ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち正社員求人の占める割合は43.8%と高く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている	学校 [大学] (就職担当)	周辺企業の様子	・ 消費税増税前の駆け込み需要も終わった気配があり、景気の不透明さが感じられる。
悪くなっている	-	-	-